

【全員に】

Q63 [回答票 32] 介護にかかわる費用は、どこから出していますか。あてはまるものをすべてあげてください。費用には、サービス利用料、医療費、介護や医療のための交通費、おむつ代などを含みます。

(M.A.)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1 (ア) ○○さんの収入 (年金を含みます) | 6 (カ) 費用はかかっていない |
| 2 (イ) ○○さんの預貯金の取り崩し | 7 わからない |
| 3 (ウ) 自分の収入・預貯金 | → (Q64 へ) |
| 4 (エ) ○○さん、自分以外の収入・預貯金 | |
| 5 (オ) その他 (具体的に) | |

SQ [回答票 33] 介護にかかわる費用は、お宅の家計にとってどの程度負担ですか。

- 1 (ア) 非常に負担である
- 2 (イ) 多少負担である
- 3 (ウ) あまり負担ではない
- 4 (エ) まったく負担ではない
- 5 わからない

【全員に】

Q64 [回答票 34] ○○さんから、次のようなものを受け取ることがありましたか。(M.A.)

- 1 (ア) 介護者のための生活費やその一部の援助
- 2 (イ) 家の新築、増改築のための資金援助
- 3 (ウ) その他のまとまった資金援助 (具体的に)
- 4 (エ) 土地の贈与
- 5 (オ) その他の物品 (具体的に)
- 6 (カ) 受け取ったものはない

Q65 [回答票 35] あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1 (ア) 一戸建て持ち家 (借地を含む) | 5 (オ) 民間の賃貸マンション・アパート |
| 2 (イ) 分譲マンション | 6 (カ) 社宅・公務員住宅などの給与住宅 |
| 3 (ウ) 公営、公社、公団の賃貸住宅 | 7 (キ) その他 (具体的に) |
| 4 (エ) 民間の一戸建て借家 | |

Q66 [回答票 36] 毎月のやりくりはいかがですか。

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1 (ア) ゆとりがある | 4 (エ) やや苦しい |
| 2 (イ) ややゆとりがある | 5 (オ) 苦しい |
| 3 (ウ) どちらともいえない | 6 わからない |

Q67 [回答票 37] では、お宅全体の去年1年間の収入は、おおよそどのくらいでしたか。

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 (ア) 100万円未満 | 6 (カ) 700~1,000万円未満 |
| 2 (イ) 100~200万円未満 | 7 (キ) 1,000~1,500万円未満 |
| 3 (ウ) 200~300万円未満 | 8 (ク) 1,500万円以上 |
| 4 (エ) 300~500万円未満 | 9 わからない |
| 5 (オ) 500~700万円未満 | |

【調査員注】 次のページも忘れずに質問する。

Q68〔回答票 38〕あなたが最後に卒業された学校は、次のように分けるとどれにあたりますか。

【旧制の場合】

- 1 (ア) 未就学・小学校中退
- 2 (イ) 尋常小学校卒業
- 3 (ウ) 高等小学校卒業
- 4 (エ) 中学校・高等女学校・実業学校・師範学校卒業
- 5 (オ) 高等専門学校・高等師範学校卒業
- 6 (カ) 大学卒業
- 7 (キ) 大学院修了
- 8 (ク) その他(具体的に)

【新制の場合】

- 9 (ケ) 未就学・小学校中退
- 10 (コ) 中学校中退
- 11 (サ) 中学校卒業
- 12 (シ) 高等学校卒業
- 13 (ス) 短期大学・高等専門学校卒業
- 14 (セ) 大学卒業
- 15 (ソ) 大学院修了
- 16 (タ) その他(具体的に)
- 17 わからない

Q69〔回答票 39〕あなたは、家庭での介護をこれからも続けたいと思いますか。

- 1 (ア) おおいに続けたい
- 2 (イ) まあ続けたいと思う
- 3 (ウ) あまり続けたいとは思わない
- 4 (エ) 続けたくない
- 5 わからない

以上で調査は終わりです。

◎もう少しお話を聞かせていただく機会を持たせていただきたいのですが、今年の夏以降に、介護保険研究会の者が改めて訪問した時には協力していただけるでしょうか。

- 1 協力できる
- 2 協力できない

◎もし、おさしつかえなければ、万一聞きもらしがあつた時の確認のために電話番号を教えてください。

電話番号 市外局番 () - () - ()

長時間ご協力ありがとうございました。

【調査員記入】

対象者の協力度

- 1 とてもよかった
- 2 まあまあだった
- 3 少しよくなかった
- 4 よくなかった

〇〇さん(要介護高齢者)は同席していたか

- 1 同席していなかった
- 2 一部同席していた
- 3 同席していた

〇〇さん以外の人は同席していたか

- 1 同席していなかった
- 2 一部同席していた
- 3 同席していた

単純集計表
在宅介護と健康に関する東京・秋田調査[A票]
(被介護者)

Q1 性別

表 1 要介護者の性別 (Q1)

性別	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
男性	242	34.8%	136	34.9%	378	34.8%	n.s.
女性	453	65.2%	254	65.1%	707	65.2%	
合計	695	100.0%	390	100.0%	1085	100.0%	

要介護者のサンプル数は、「葛飾」が 695 人、「大館・田代」が 390 人で、合計 1,085 人である。

性別は、「葛飾」では“男性” 242 人 (34.8%)，“女性” 453 人 (65.2%)，“大館・田代”では“男性” 136 人 (34.9%)，“女性” 254 人 (65.1%)と、両地域とも在宅の要介護高齢者のおよそ 65%は“女性”であり、性別における地域差は見られない。

Q2 年齢

表 2 要介護者の平均年齢 (Q2-1)

平均年齢	葛飾			大館・田代			合計			検定
	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	
全体	695	78.9	7.4	390	80.4	7.2	1085	79.5	7.4	p<.001
男性	242	76.8	7.3	136	77.7	7.3	378	77.1	7.3	n.s.
女性	453	80.1	7.2	254	81.9	6.7	707	80.7	6.7	p<.001

要介護者の平均年齢は、全体では「葛飾」は 78.9 歳、「大館・田代」は 80.4 歳と、「大館・田代」の方が平均年齢が高くなっている。

性別による平均年齢については、“男性”の平均年齢は両地域で有意な差はないが、“女性”の平均年齢は「葛飾」では 80.1 歳、「大館・田代」では 81.9 歳と、2 歳程度「大館・田代」が高くなっている。

表 3 要介護者の年齢分布 (Q2-2)

年齢分布	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
65-74歳	208	29.9%	88	22.6%	296	27.3%	p<.05
75-84歳	324	46.6%	186	47.7%	510	47.0%	
85歳以上	163	23.5%	116	29.7%	279	25.7%	
合計	695	100.0%	390	100.0%	1085	100.0%	

要介護者の年齢分布で見ても、“65 - 74 歳”の層は「葛飾」が 29.9%、「大館・田代」が 22.6%と、「葛飾」では前期高齢者層が多いのに対して、“85 歳以上”の層では「葛飾」が 23.5%、「大館・田代」が 29.7%と、「大館・田代」では“85 歳以上”の超高齢者が多くなっている。

Q3 要介護度

表 4 要介護度の分布 (Q3-1)

要介護度	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
要支援	114	17.1%	82	21.4%	196	18.6%	n.s.
要介護1	268	40.2%	160	41.7%	428	40.7%	
要介護2	144	21.6%	80	20.8%	224	21.3%	
要介護3	81	12.1%	39	10.2%	120	11.4%	
要介護4	40	6.0%	16	4.2%	56	5.3%	
要介護5	20	3.0%	7	1.8%	27	2.6%	
合計	667	100.0%	384	100.0%	1051	100.0%	

要介護度の分布については、地域による有意な差はみられない。しかし、「葛飾」では“要介護 3・4・5”の層が「大館・田代」よりも多く分布しており、一方「大館・田代」では“要支援・要介護 1”の層が「葛飾」よりも多くなっている。すなわち、傾向として「葛飾」では要介護が重い方に多少分布し、「大館・田代」では軽い方に分布している。

表 5 男性の要介護度の分布 (Q3-2)

男性要介護度	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
要支援	35	14.9%	21	15.6%	56	15.1%	n.s.
要介護1	76	32.3%	39	28.9%	115	31.1%	
要介護2	66	28.1%	41	30.4%	107	28.9%	
要介護3	39	16.6%	22	16.3%	61	16.5%	
要介護4	14	6.0%	6	4.4%	20	5.4%	
要介護5	5	2.1%	6	4.4%	11	3.0%	
合計	235	100.0%	135	100.0%	370	100.0%	

“男性”の要介護度分布についても、地域的な有意な差はみられない。

表 6 女性の要介護度の分布 (Q3-3)

女性要介護度	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
要支援	79	18.3%	61	24.5%	140	20.6%	p<.05
要介護1	192	44.4%	121	48.6%	313	46.0%	
要介護2	78	18.1%	39	15.7%	117	17.2%	
要介護3	42	9.7%	17	6.8%	59	8.7%	
要介護4	26	6.0%	10	4.0%	36	5.3%	
要介護5	15	3.5%	1	0.4%	16	2.3%	
合計	432	100.0%	249	100.0%	681	100.0%	

“女性”の要介護度の分布は、もっとも軽度の“要支援”が「葛飾」では 18.3%に対して、「大館・田代」では 24.5%と多く、一方重度の“要介護 3・4・5”は「葛飾」では 19.2%に対して、「大館・田代」では 11.2%と少なくなっている。すなわち、“女性”の要介護度については、「葛飾」では重い方に分布し、一方「大館・田代」では軽い方に分布しており、地域的に有意な差が見られる。

Q4 主介護者

1) 主介護者の続柄

表 7 主介護者の続柄 (Q4-1)

主介護者続柄	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
配偶者	247	36.5%	115	30.4%	362	34.3%	p<.001
子供	175	25.8%	86	22.8%	261	24.7%	
子供の配偶者	73	10.8%	84	22.2%	157	14.9%	
ヘルパー等	162	23.9%	73	19.3%	235	22.3%	
その他	20	3.0%	20	5.3%	40	3.8%	
合計	677	100.0%	378	100.0%	1055	100.0%	

主介護者の続柄について見ると、全体で“配偶者”は34.3%，“子供”は24.7%、次いで“ヘルパー等”が22.3%を占めている。“ヘルパー等”を主たる介護者に挙げた要介護者が2割強いることは注目に値すると思われる。

地域的な差については，“配偶者”は「葛飾」で36.5%に対して「大館・田代」で30.4%，“子供”は「葛飾」で25.8%に対して「大館・田代」で22.8%，“ヘルパー等”は「葛飾」で23.9%に対して「大館・田代」で19.3%となり、「葛飾」では“配偶者”，“子供”，“ヘルパー等”が多くなっている。一方“子供の配偶者”は「葛飾」では10.8%に対して，「大館・田代」では22.2%と12ポイントも高く，「大館・田代」では依然として“子供の配偶者”，すなわちそのほとんどが女性であることを考えると，“嫁”が主たる介護者となっている。このように主介護者の続柄から地域的な差を見ることができる。

2) 主介護者の性別

表 8 主介護者の性別 (Q4-2)

主介護者性別	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
(主)男性	167	32.5%	62	20.3%	229	28.0%	p<.001
(主)女性	347	67.5%	243	79.7%	590	72.0%	
合計	514	100.0%	305	100.0%	819	100.0%	

主介護者の性別では，「葛飾」では“男性”が32.5%に対して，「大館・田代」では20.3%と低く，一方“女性”は「葛飾」では67.5%に対して，「大館・田代」では79.7%と高く，主介護者の性別において地域的な有意な差が見られる。すなわち，「葛飾」では“男性”の主介護者が3割以上を占め，一方「大館・田代」ではおよそ8割が“女性”の主介護者である。

3) 介護理由

表 9 介護理由（複数回答）（Q4-3）

介護理由(複数)	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
総数	509		303		812		
配偶者だから	240	47.2%	114	37.6%	354	43.6%	p<.01
嫁だから	56	11.0%	75	24.8%	131	16.1%	p<.001
長男だから	45	8.8%	30	9.9%	75	9.2%	n.s.
長女だから	68	13.4%	30	9.9%	98	12.1%	n.s.
介護しやすい	128	25.1%	115	38.0%	243	29.9%	p<.001
しかいない	92	18.1%	69	22.8%	161	19.8%	n.s.
介護すべき人	2	0.4%	4	1.3%	6	0.7%	n.s.
お世話したい	22	4.3%	28	9.2%	50	6.2%	p<.01
その他	29	5.7%	17	5.6%	46	5.7%	n.s.

「その方がお世話してくれるようになったのは、どのようなことからですか。」と介護理由について要介護者本人に複数回答で尋ねた。

全体では“配偶者だから”が43.6%ともっとも高く、次いで“介護しやすい（その方が最も介護しやすい状態にあったから）”が29.9%，“しかいない（その方しかいなかったから）”が19.8%の順になっている。

“配偶者・嫁・長男・長女だから”という回答については、要介護者の家族形態が反映されていると思われるが、「葛飾」では“配偶者だから”が42.7%（「大館・田代」37.6%）と高く、一方「大館・田代」では“嫁だから”が24.8%（「葛飾」11.0%）が有意に高くなっている。

その他に地域的な有意差がでた項目は、“介護しやすい”が「葛飾」では25.1%に対して、「大館・田代」では38.0%と高く、“お世話したい（お世話したいと言ってくれたから）”は「葛飾」は4.3%に対して、「大館・田代」は9.2%と高くなっている。

4) 主介護者の同居・別居

表 10 主介護者の同居・別居 (Q4-4)

同居・別居	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
同居	435	85.1%	368	91.3%	803	87.9%	n.s.
別居	76	14.9%	35	8.7%	111	12.1%	
合計	511	100.0%	403	100.0%	914	100.0%	

主介護者が要介護者と同居・別居しているかを尋ねた。前問で主介護者を“ヘルパー等”と回答した人については本問から除外されている。

全体では主介護者との“同居”は、803人、87.9%，“別居”は111人、12.1%である。すなわち、主介護者の12%は“別居”で介護を行なっている。

地域別に見ると、有意差はでないものの，“別居”は「葛飾」で76人、14.9%、「大館・田代」で35人、8.7%で、「葛飾」での“別居”の比率が高くなっている。

5) 別居主介護者の居住距離

表 11 別居主介護者の居住距離 (Q4-4SQ)

別居居住距離	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
15分未満	32	42.7%	20	57.1%	52	47.3%	n.s.
15-60分未満	28	37.3%	10	28.6%	38	34.5%	
60分以上	15	20.0%	5	14.3%	20	18.2%	
合計	75	100.0%	35	100.0%	110	100.0%	

別居主介護者の住まいまでの距離は、全体では“15分未満”が47.3%と、ほぼ半数を占めている。

地域的な有意差はないが、「葛飾」の方が“15-60分未満”が37.3%，“60分以上”が20.0%と、「大館・田代」と比較して、遠距離からの介護であることがわかる。

Q5 家族

1) 家族人数

表 12 家族人数 (Q5-1)

平均家族人数	葛飾			大館・田代			合計			検定
	N	Mean	s.d.	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	
全体	695	2.42	1.48	390	2.82	1.78	1085	2.56	1.78	p<.001
男性	242	2.48	1.43	136	3.23	1.87	378	2.75	1.64	p<.001
女性	453	2.39	1.51	254	2.59	1.69	707	2.46	1.58	n.s.

家族人数を見ると、全体では 2.56 人であった。

地域別に見ると、「葛飾」は 2.42 人、「大館・田代」は 2.82 人と、「大館・田代」の方が家族人数、すなわち世帯規模が大きい。

また要介護者の性別でみると、“男性”は「葛飾」では 2.48 人に対して、「大館・田代」では 3.23 人と大きくなり、地域的に有意な差がみられる。すなわち、「大館・田代」の“男性”は「葛飾」の“男性”に比べて、世帯規模が大きな家族の中で暮らしていることがわかる。

2) 同居家族の続柄

表 13 同居家族の続柄 (Q5-2)

同居者続柄	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
総数	695		390		1085		
夫	129	18.6%	32	8.2%	161	14.8%	p<.001
妻	161	23.2%	103	26.4%	264	24.3%	n.s.
息子	191	27.5%	159	40.8%	350	32.3%	p<.001
娘	95	13.7%	39	10.0%	134	12.4%	p<.05
婿	50	7.2%	17	4.4%	67	6.2%	p<.05
嫁	97	14.0%	131	33.6%	228	21.0%	p<.001
孫	126	18.1%	109	27.9%	235	21.7%	p<.001
父母	5	0.7%	3	0.8%	8	0.7%	n.s.
兄弟姉妹	3	0.4%	4	1.0%	7	0.6%	n.s.
その他	16	2.3%	23	5.9%	39	3.6%	p<.01

上の表は同居家族の続柄について、その出現率を示している。全体で見ると、“息子”32.3%、“妻”24.3%、“孫”21.7%、“嫁”21.0%、“夫”14.8%、“娘”12.4%の順になっている。

地域別に有意差がでた項目をみると、「葛飾」では“夫”が18.6%（「大館・田代」8.2%），“娘”13.7%（「大館・田代」10.0%），“婿”が7.2%（「大館・田代」4.4%）と高くなっている。一方「大館・田代」では，“息子”が40.8%（「葛飾」27.5%），“嫁”が33.6%，“孫”が27.9%と高くなっていて、孫を含めた拡大家族で生活している要介護者が相対的に多いことがわかる。

3) 世帯類型

表 14 世帯類型 (Q5-3)

家族形態	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
一人暮らし	214	30.8%	108	27.7%	322	27.9%	p<.001
夫婦のみ	181	26.0%	70	17.9%	251	21.7%	
既婚子同居	142	20.4%	141	36.2%	283	24.5%	
未婚子同居	138	19.9%	52	13.3%	190	16.4%	
その他	20	2.9%	19	4.9%	39	3.4%	
合計	695	100.0%	390	100.0%	1085	100.0%	

同居家族の続柄に基づいて世帯類型にまとめると、全体では、“一人暮らし”は27.9%、“夫婦のみ”21.7%、“既婚子同居”24.5%、“未婚子同居”16.4%、“その他”3.4%である。

地域別に見ると、「葛飾」では“夫婦のみ”が26.0%（「大館・田代」17.9%）と多いのに対して、「大館・田代」では“既婚子同居”が36.2%（「葛飾」20.4%）と際立って多くなっている。「大館・田代」ではこうした息子夫婦や娘夫婦と同居している要介護者が多いことがわかる。また“既婚子同居”と“未婚子同居”を含めた“子供との同居”は「葛飾」では40.3%に対して、「大館・田代」では49.5%であり、「大館・田代」ではほぼ半数が子供と同居している。

表 15 男性の世帯類型 (Q5-4)

男性の世帯類型	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
一人暮らし	55	22.7%	20	14.7%	75	19.8%	p<.001
夫婦のみ	97	40.1%	45	33.1%	142	37.6%	
既婚子同居	32	13.2%	47	34.6%	79	20.9%	
未婚子同居	49	20.2%	17	12.5%	66	17.5%	
その他	9	3.7%	7	5.1%	16	4.2%	
合計	242	100.0%	136	100.0%	378	100.0%	

“男性”の要介護者の場合、全体では“夫婦のみ”が37.6%ともっとも多い。

地域的には、「葛飾」では“一人暮らし”が22.7%、“夫婦のみ”が40.1%と、高齢者のみで構成される世帯が6割を占めるのに対して、「大館・田代」では“既婚子同居”が34.6%（「葛飾」13.2%）と高くなっている。また「大館・田代」では“一人暮らし”が14.7%と相対的に低いことを考え合わせると、この地域では子供との同居が早い時期から行なわれ、妻が亡くなくても一人暮らしにならない傾向があるように思われる。

表 16 女性の世帯類型 (Q5-5)

女性の世帯類型	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
一人暮らし	159	35.1%	88	34.6%	247	34.9%	p<.001
夫婦のみ	84	18.5%	25	9.8%	109	15.4%	
既婚子同居	110	24.3%	94	37.0%	204	28.9%	
未婚子同居	89	19.6%	35	13.8%	124	17.5%	
その他	11	2.4%	12	4.7%	23	3.3%	
合計	453	100.0%	254	100.0%	707	100.0%	

“女性”の要介護者の場合は、全体では“一人暮らし”が34.9%ともっとも高くなっている。

地域別には、両地域とも“一人暮らし”は35%程度と高いものの、「大館・田代」ではそれを抜いて“既婚子同居”が37.0%（「葛飾」24.3%）ともっとも高く、“女性”の要介護者の場合でも子供夫婦との同居が多い。

要介護者の性別で世帯類型を見た場合，“男性”であれば“夫婦のみ”世帯が多く、“女性”であれば“一人暮らし”が多くなっている。またこの点に関してはさらに深い分析が必要と思われるが、子供との同居形態は、要介護による同居というよりは、子供が結婚した時点での同居であり、その世帯類型がそのまま要介護になっても引継がれ、それが「大館・田代」での“男性”の“一人暮らし”と“女性”の“夫婦のみ”の相対的低さを説明するように思う。

Q6 配偶者

1) 配偶者の有無

表 17 配偶者の有無 (Q6-1)

配偶者の有無	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
有配偶同居	288	41.6%	134	34.4%	422	39.0%	p<.05
有配偶別居	13	1.9%	16	4.1%	29	2.7%	
無配偶(死別)	329	47.5%	214	54.9%	543	50.2%	
無配偶(その他)	62	9.0%	26	6.7%	88	8.1%	
合計	692	100.0%	390	56.4%	1082	156.4%	

全体では“無配偶(死別)”が50.2%ともっとも多く、次いで“有配偶同居”が39.0%となっている。

地域別に見ると、「葛飾」では“有配偶同居”が41.6%と高く（「大館・田代」34.4%）、一方「大館・田代」では“無配偶(死別)”が54.9%と高くなっている。

表 18 性別による無配偶 (Q6-2)

無配偶	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
男性無配偶 (事実上)	81	33.5%	33	24.3%	114	30.2%	p<.05
女性無配偶 (事実上)	323	71.8%	223	87.8%	546	77.6%	p<.001

“有配偶別居”を“事実上の無配偶”と見なし、性別で無配偶者の比率を調べたのが上の表である。

全体で、“男性”の場合は“事実上の無配偶”は30.2%であるのに対して、“女性”は77.6%と男女の差は歴然としている。

地域別には、「大館・田代」での“男性”の“事実上の無配偶”は24.3%と相対的に低く、“女性”の“事実上の無配偶”は87.8%と相対的に高くなっている。

2) 無配偶の期間

表 19 無配偶平均期間 (Q6-SQ)

無配偶平均期間	葛飾			大館・田代			合計			検定
	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	
全体	279	203.1	183.1	155	228.3	204.2	434	212.1	191.1	n.s.
男性	57	115.4	116.2	19	92.7	70.0	76	109.8	106.6	n.s.
女性	222	225.6	190.4	136	247.2	209.7	358	233.8	198.0	n.s.

死別や離婚によって“無配偶”になった者に対して、死別・離婚時からの期間を尋ねた。

無配偶平均期間は、全体で212.1ヵ月である。性別による平均期間は、“男性”で109.8ヵ月(9.2年)、“女性”で233.8ヵ月(19.5年)であり、男女による無配偶期間の違いは歴然としている。

地域的な有意差は出なかったが、「葛飾」と比較すると、「大館・田代」の“男性”は無配偶期間が相対的に短く、一方“女性”は相対的に長くなっている。

Q7 同居子・別居子

1) 子供の人数

表 20 子供の人数 (Q7-1)

子供の人数	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
1人	115	18.9%	45	12.5%	160	16.5%	p<.001
2人	254	41.8%	120	33.2%	374	38.6%	
3人	138	22.7%	83	23.0%	221	22.8%	
4人	65	10.7%	63	17.5%	128	13.2%	
5人以上	35	5.8%	50	13.9%	85	8.8%	
合計	607	100.0%	361	100.0%	968	100.0%	

子供がいない人を除いて、子供の人数を尋ねた。

全体では“2人”が38.6%ともっとも高くなっている。地域別では、「大館・田代」が「葛飾」に比べて、子供の多い方に分布し、地域的に有意な差となっている。

2) 同居子, 別居子の人数

表 21 同・別居子の人数 (Q7-2)

同・別居子	葛飾			大館・田代			合計			検定
	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	
平均子供人数	607	2.45	1.16	361	2.92	1.34	968	2.62	1.25	p<.001
同居子の人数	607	0.49	0.57	361	0.56	0.55	968	0.52	0.56	n.s.
別居子の人数	607	1.96	1.22	361	2.36	1.36	968	2.11	1.25	p<.001

子供の平均人数は、全体で2.62人で、「葛飾」では2.45人、「大館・田代」では2.92と「大館・田代」の方が子供の人数が多い。

同居子の人数では全体では0.52人で、地域的な有意差は見られない。しかし「大館・田代」では子供との同居率が高いため、これが人数に反映されていると思われる。

別居子の人数では、全体で1.25であり、「葛飾」では1.22人に対して、「大館・田代」では2.36人と多くなっている。

3) 子供との同居率

表 22 子供との同居率 (Q7-3)

子供との同居率	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
全体	280	40.3%	193	49.5%	473	43.6%	p<.01
男性同居率	81	33.4%	64	47.0%	145	38.3%	p<.05
女性同居率	199	43.9%	129	50.8%	328	46.4%	n.s.

子供との同居率は全体で 43.6%であるが、地域的には「葛飾」は 40.3%、「大館・田代」は 49.5%と「大館・田代」の方が同居率が高い。

性別による同居率では、“男性”では全体が 38.3%に対して、「葛飾」は 33.4%、「大館・田代」は 47.0%と、「大館・田代」の“男性”の場合はおよそ半数弱が子供と同居している。“女性”では地域的な有意差はでなかったが、やはり「大館・田代」の“女性”の半数は子供との同居である。

4) 別居子との距離

表 23 別居子との距離 (Q7-SQ)

別居子との距離	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
15分未満	155	28.4%	94	28.7%	249	28.6%	p<.01
15-60分未満	189	34.7%	80	24.5%	269	30.8%	
60分以上	201	36.9%	153	46.8%	354	40.6%	
合計	545	100.0%	327	100.0%	872	100.0%	

別居子がいる者に対して、もっとも近い別居子の住まいまでの時間的距離を尋ねた。

全体では、“60分以上”が4割，“15-60分未満”が3割，“15分未満”が3割であった。

地域別では、「大館・田代」で“60分以上”が46.8%を占め、一番近い別居子でもその半数は60分以上の遠距離にいることがわかる。

表 24 男性による別居子との距離 (Q7-SQ1)

男性別居距離	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
15分未満	62	31.6%	23	19.8%	85	27.2%	p<.01
15-60分未満	61	31.1%	29	25.0%	90	28.8%	
60分以上	73	37.2%	64	55.2%	137	43.9%	
合計	196	100.0%	116	100.0%	312	100.0%	

要介護者が“男性”の場合のもっとも近い別居子との時間的距離を見ると、「葛飾」ではそれぞれ 30%台で分散しているのに対して、「大館・田代」では、“15分未満”が19.8%と低く、“60分以上”が55.2%と高くなっている。

表 25 女性による別居子との距離 (Q7-SQ2)

女性別居距離	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
15分未満	93	26.6%	71	33.6%	164	29.3%	p<.01
15-60分未満	128	36.7%	51	24.2%	179	32.0%	
60分以上	128	36.7%	89	42.2%	217	38.8%	
合計	349	100.0%	211	100.0%	560	100.0%	

要介護者が“女性”の場合は、「大館・田代」では、“15分未満”が33.6%と高くなっている。

男女の別居子との距離を比較してみると、「大館・田代」では、男女ともほぼ半数が“60分以上”の遠距離にいるが、“女性”の場合にはおよそ1/3が“15分未満”の距離に別居子がいることがわかる。

Q8 主観的健康感

表 26 主観的健康感 (Q8)

主観的健康	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
健康	141	20.5%	109	28.0%	250	23.2%	p<.05
あまり健康でない	347	50.4%	176	45.2%	523	48.5%	
まったく健康でない	201	29.2%	104	26.7%	305	28.3%	
合計	689	100.0%	389	100.0%	1078	100.0%	

「あなたは、ふだん、ご自分で健康だと思いますか。」と主観的健康感について尋ねた。

全体では、“あまり健康ではない”は48.5%ともっとも多かった。

地域別では、“健康”は「葛飾」の20.5%に対して、「大館・田代」は28.0%と高く、一方“あまり健康でない”，“まったく健康でない”は「葛飾」の方が相対的に高かった。すなわち「大館・田代」の要介護者の方が相対的に“健康”とする人が多いと言える。

Q9 うつ傾向 (CES-D)

表 27 うつ傾向 (CES-D) 項目 (Q9-1)

CES-D項目	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
食欲							
よくあった	110	15.9%	52	14.4%	162	14.9%	n.s.
ときどきあった	145	20.9%	69	19.2%	214	19.7%	
ほとんどなかった	439	63.3%	239	66.4%	708	65.3%	
ゆううつ							
よくあった	109	15.8%	34	8.8%	143	13.3%	p<.01
ときどきあった	188	27.2%	101	26.1%	289	26.8%	
ほとんどなかった	395	57.1%	252	65.1%	647	60.0%	
おっくう							
よくあった	155	22.5%	54	14.1%	209	19.5%	p<.001
ときどきあった	227	32.9%	95	24.8%	322	30.0%	
ほとんどなかった	307	44.6%	234	61.1%	541	50.5%	
よく眠れない							
よくあった	163	23.5%	66	16.9%	229	21.1%	p<.05
ときどきあった	172	24.8%	93	23.8%	265	24.5%	
ほとんどなかった	358	51.7%	231	59.2%	589	54.4%	
うれしい							
よくあった	116	16.7%	52	13.4%	168	15.5%	p<.01
ときどきあった	283	40.8%	132	34.1%	415	38.4%	
ほとんどなかった	295	42.5%	203	52.5%	498	46.1%	
さびしい							
よくあった	100	14.4%	38	9.8%	138	12.8%	n.s.
ときどきあった	192	27.7%	105	27.2%	297	27.5%	
ほとんどなかった	402	57.9%	243	63.0%	645	59.7%	
よそよそしい							
よくあった	11	1.6%	3	0.8%	14	1.3%	n.s.
ときどきあった	56	8.1%	28	7.3%	84	7.8%	
ほとんどなかった	626	90.3%	352	91.9%	978	90.9%	
楽しい							
よくあった	116	16.7%	56	14.5%	172	15.9%	p<.05
ときどきあった	291	41.9%	139	35.9%	430	39.8%	
ほとんどなかった	287	41.4%	192	49.6%	479	44.3%	

悲しい

よくあった	57	8.2%	25	6.4%	82	7.6%	n.s.
ときどきあった	163	23.5%	79	20.4%	242	22.4%	
ほとんどなかった	473	68.3%	284	73.2%	757	70.0%	

嫌われている

よくあった	8	1.2%	4	1.0%	12	1.1%	n.s.
ときどきあった	62	9.0%	24	6.2%	86	8.0%	
ほとんどなかった	620	89.9%	358	92.7%	978	90.9%	

やる気がない

よくあった	124	17.9%	50	12.9%	174	16.1%	p<.001
ときどきあった	214	31.0%	75	19.4%	289	26.8%	
ほとんどなかった	353	51.1%	262	67.7%	615	57.1%	

高齢者のうつ傾向を測定する CES-D の 11 項目を使用して尋ねた。

うつ傾向を示すネガティブな質問に対して“よくあった”と“ときどきあった”を、ポジティブな問いに対しては“ときどきあった”と“ほとんどなかった”を足した比率は、全体の高い順に、“楽しい” 84.1%，“うれしい” 74.5%，“おっくう” 49.5%，“よく眠れない” 45.6%，“やる気がない” 42.9%，“さみしい” 40.3%，“ゆううつ” 40%，“食欲” 34.7%，“悲しい” 30.0%，“よそよそしい” 9.1%，“嫌われている” 9.1%であった。要介護者のおよそ 70～80%台は、日常生活の中で“楽しい”とか“うれしい”といった感情を頻繁に感じず、30%～50%近くが“おっくう”、“やる気がない”、“さみしい”、“悲しい”という意欲と感情の低下をもち、“不眠”は 50%近く、“食欲不振”は 30%強で、さすがに他者からの疎外感を示す“よそよそしい”、“嫌われている”は 9%台であるが、全体に要介護高齢者のうつ傾向は高いことがわかる。

地域別に有意な差が見られた項目は、“ゆううつ”（「葛飾」が高率），“おっくう”（「葛飾」が高率），“よく眠れない”（「葛飾」が高率），“やる気がない”（「葛飾」が高率）など、「葛飾」では意欲や感情面の低下が多く見られるのに対して、「大館・田代」では“うれしい”（「大館・田代」が高率），“楽しい”（「大館・田代」が高率）などの感情の高揚に対して否定的な回答が多く出されている。